

(2)平成24年度利用状況

前回会議において報告しました、ミニバス三沢台路線をはじめとする、各交通モード、各路線の利用状況について、詳細な資料を取りまとめました。今後の対応策や、有効な手法について検討するため、詳細なデータを報告します。

1)ミニバスについて

平成20年度に策定された「日野市地域公共交通総合連携計画」に基づき、平成21年度に「川辺堀之内路線」の開設、平成22年度に「ミニバス路線再編」を実施しました。路線によっては運行本数や運行経路の変更により、利用者の増減がありますが、再編前から現在までの利用人員を再認識し、分析することにより今後のミニバスの方向性を検討する材料とします。

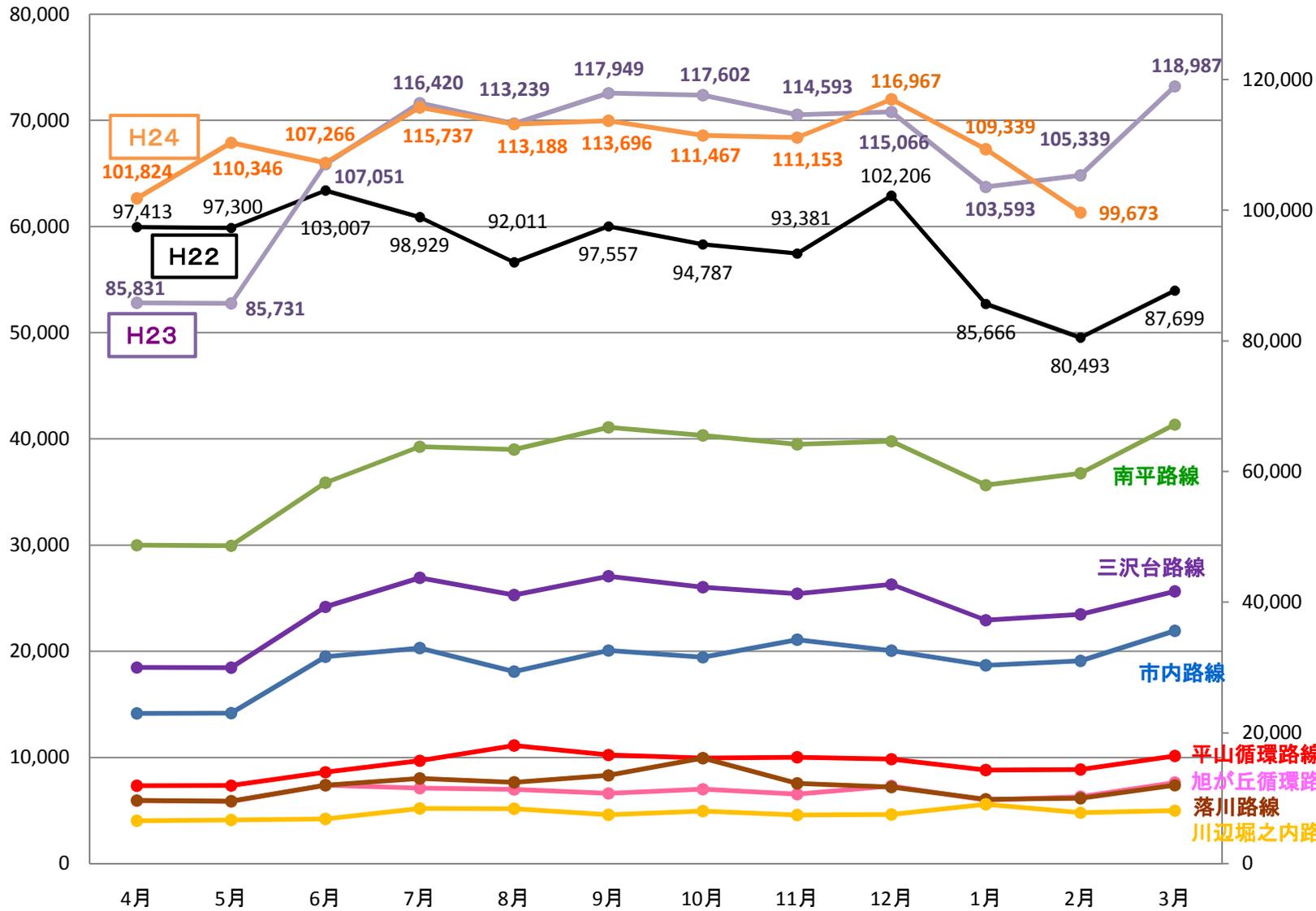
2)ワゴンタクシーについて

ワゴンタクシーの利用人員については、平山ルートは順調な伸びを見せているものの、明星ルートについては、近年、減少傾向にある。沿線自治会へのPRチラシ配布などにより利用者の増加を図ることを検討しているところですが、利用者動向について再度認識し、今後の対応策を検討したいと考えています。

ミニバス利用人員表 (各路線のグラフは平成23年度実績)

※日野台路線除く

(人)



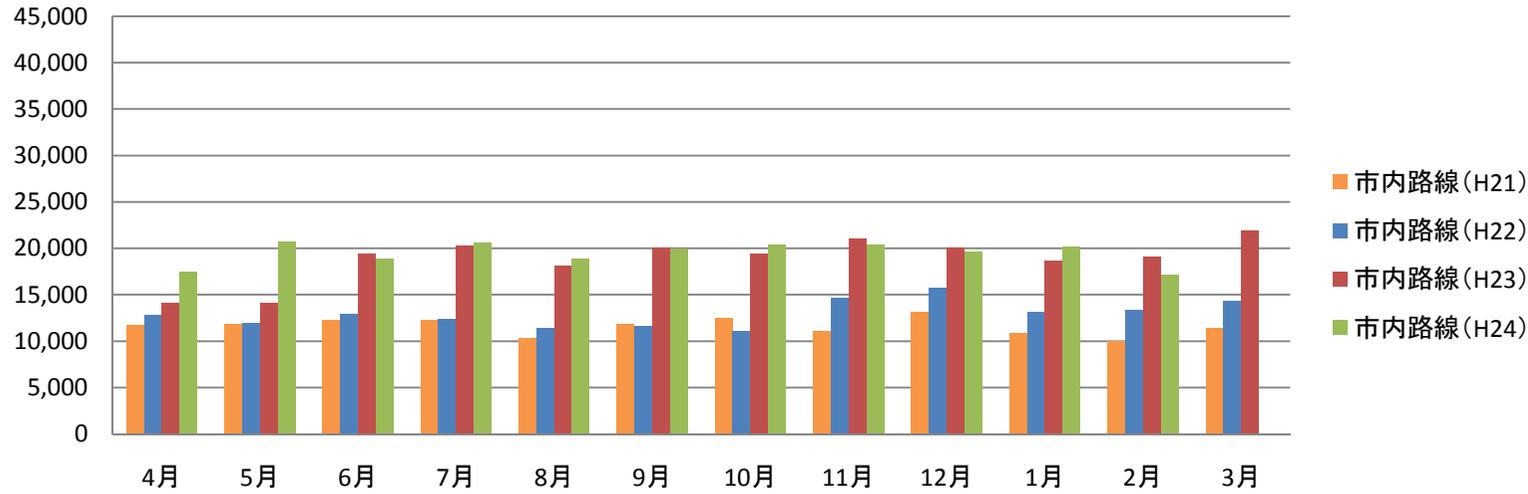
§ 年間合計 §
 H22年度 1,130,449
 H23年度 1,301,401
 (170,952人増)
 § 4~2月比較
 H22年度 1,042,750
 H23年度 1,182,414
 H24年度 1,210,656

凡 例

- 市内路線
- 三沢台路線
- 南平路線
- 旭が丘循環路線
- 平山循環路線
- 落川路線
- 川辺堀之内路線
- 平成22年度実績
- 平成23年度実績
- 平成24年度実績

市内路線乗車人員比較表

※グラフは、最大45,000人

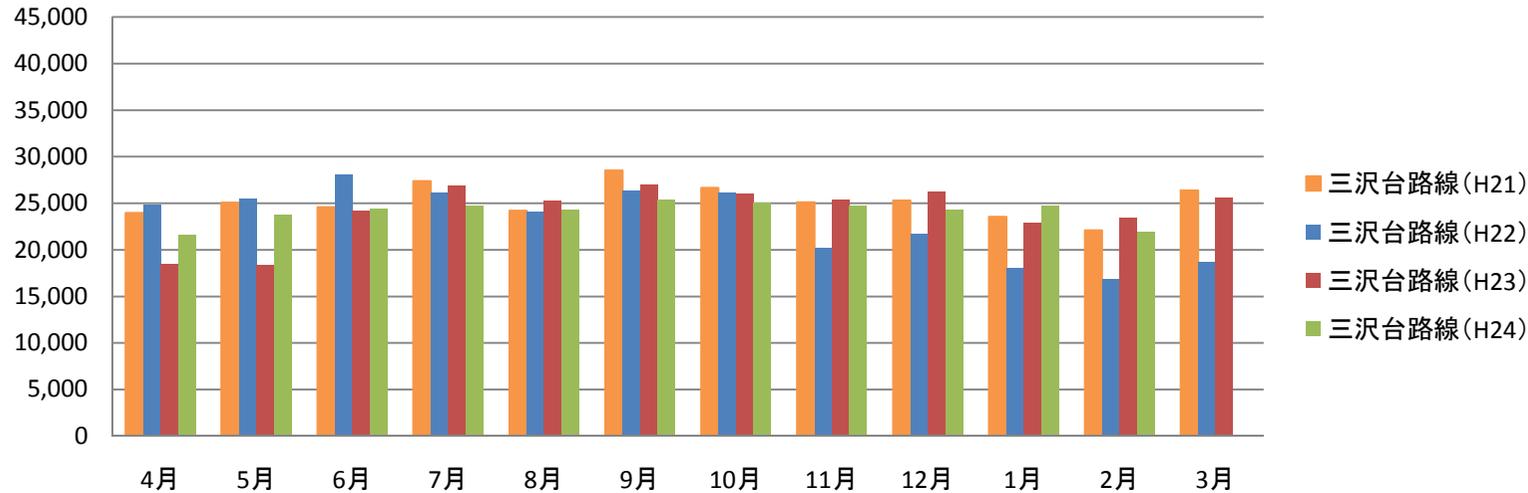


コメント

再編以降、利用者は順調に増加している。しかし、昨年度と今年度を比較すると、ほぼ同程度の利用者数となっているため、今後の動向を注視する必要がある。

三沢台路線乗車人員比較表

※グラフは、最大45,000人

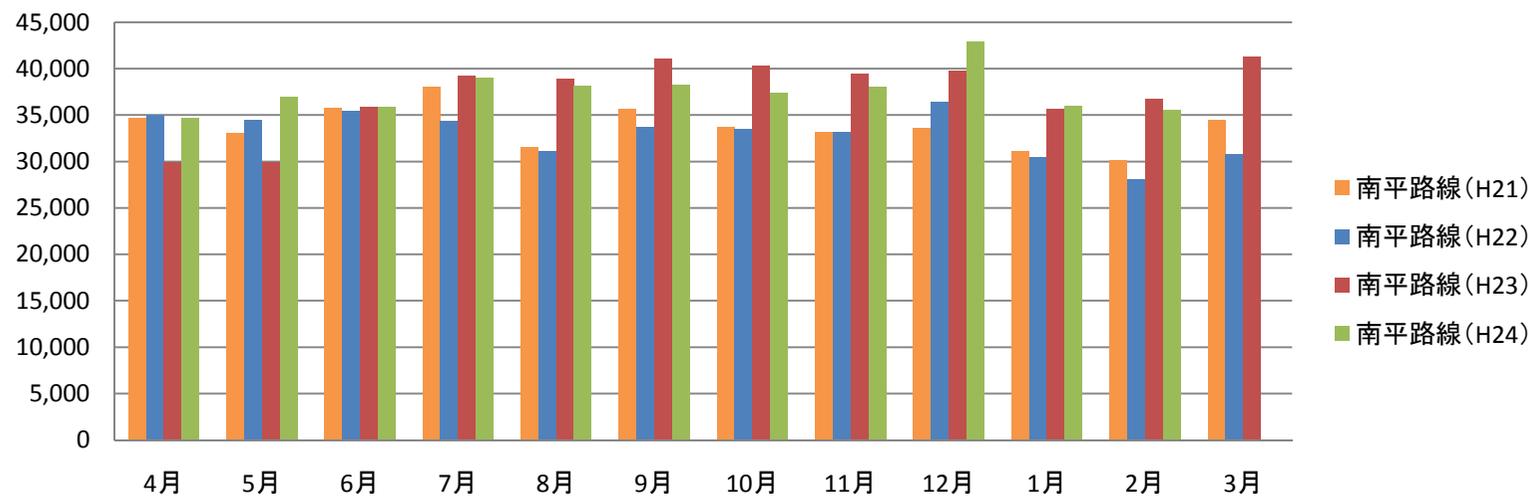


コメント

再編後、一時期利用者は減少したが、現在は、ほぼ以前の利用者数と同等に回復している。

南平路線乗車人員比較表

※グラフは、最大45,000

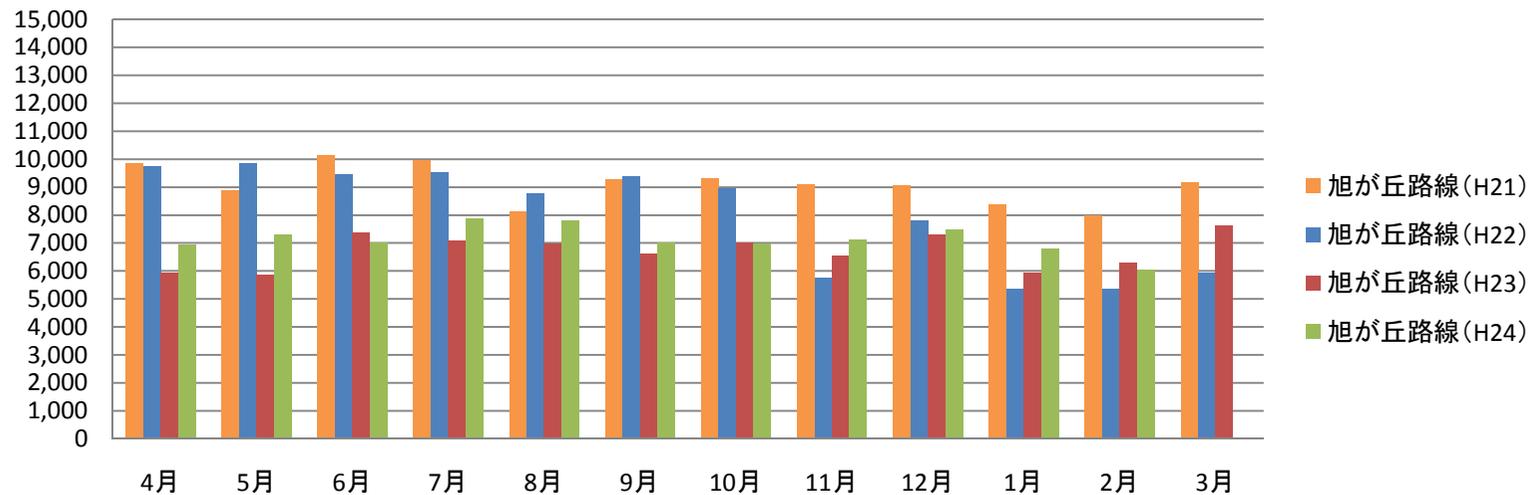


コメント

再編以降、利用者は順調に増加している。平成24年12月には、過去4年間で最高の利用者数を示している。

旭が丘循環路線乗車人員比較表

※グラフは、最大15,000人

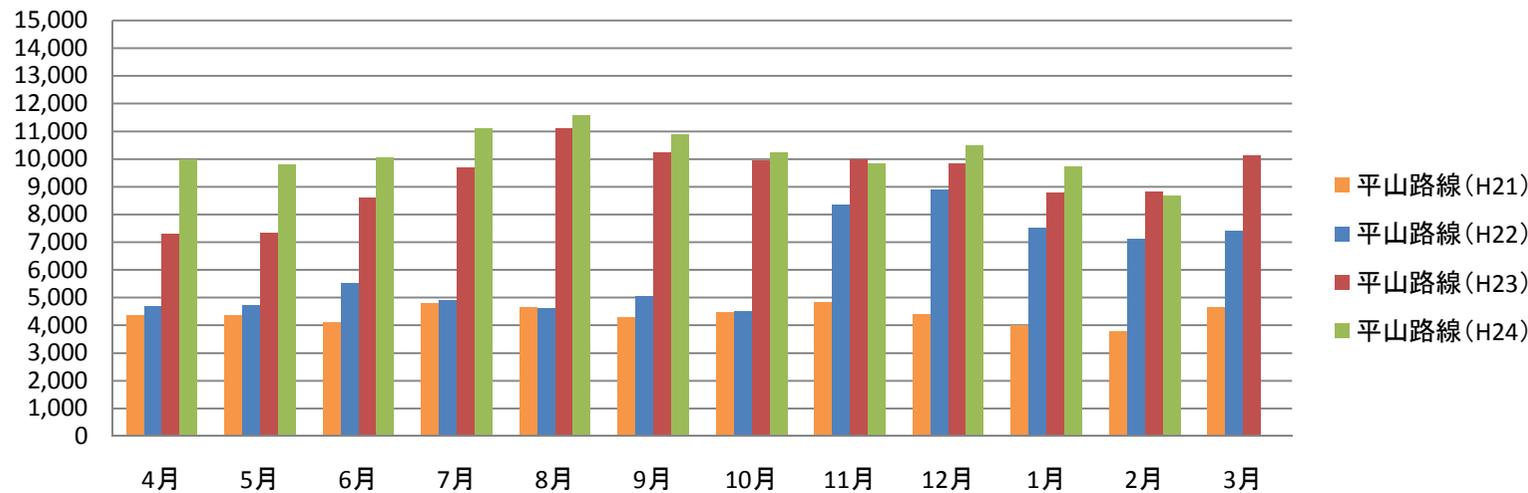


コメント

再編以前と比較して、再編後の全体の利用者は減少している。しかし、再編後に実施した実証調査でのエリア別の利用人員では125%の増加を示していたため、再編後の利用者数が増加傾向であれば順調であると言える。

平山循環路線乗車人員比較表

※グラフは、最大15,000人

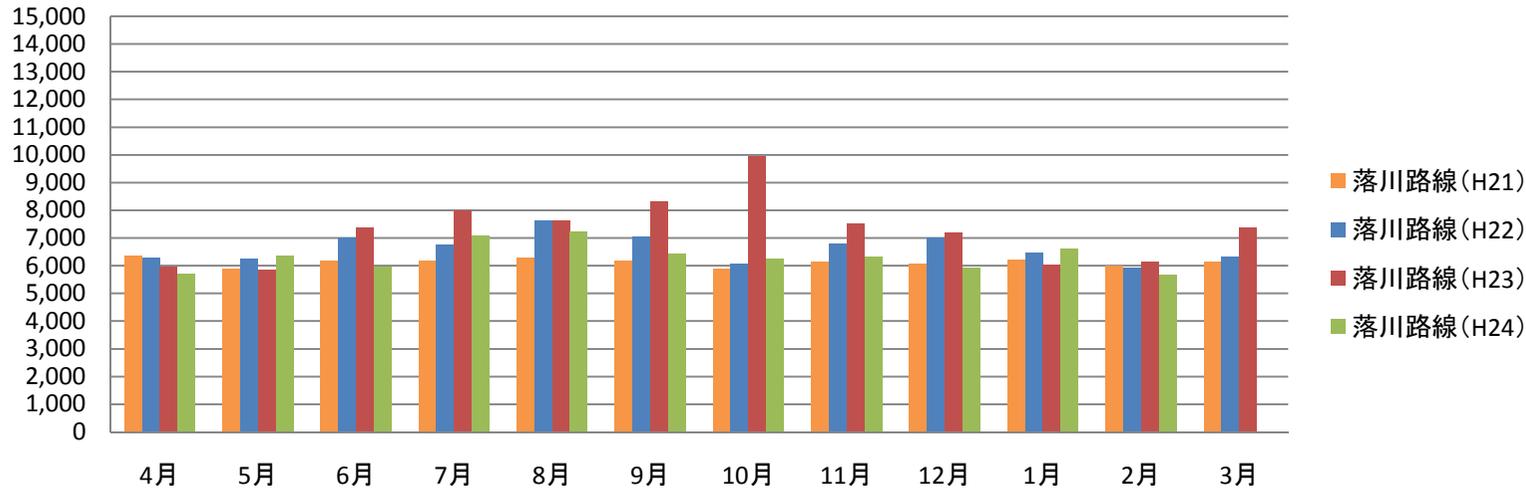


コメント

再編の効果が顕著に表れている。再編後も、利用者数が増加傾向であるため順調である。

落川路線乗車人員比較表

※グラフは、最大15,000人

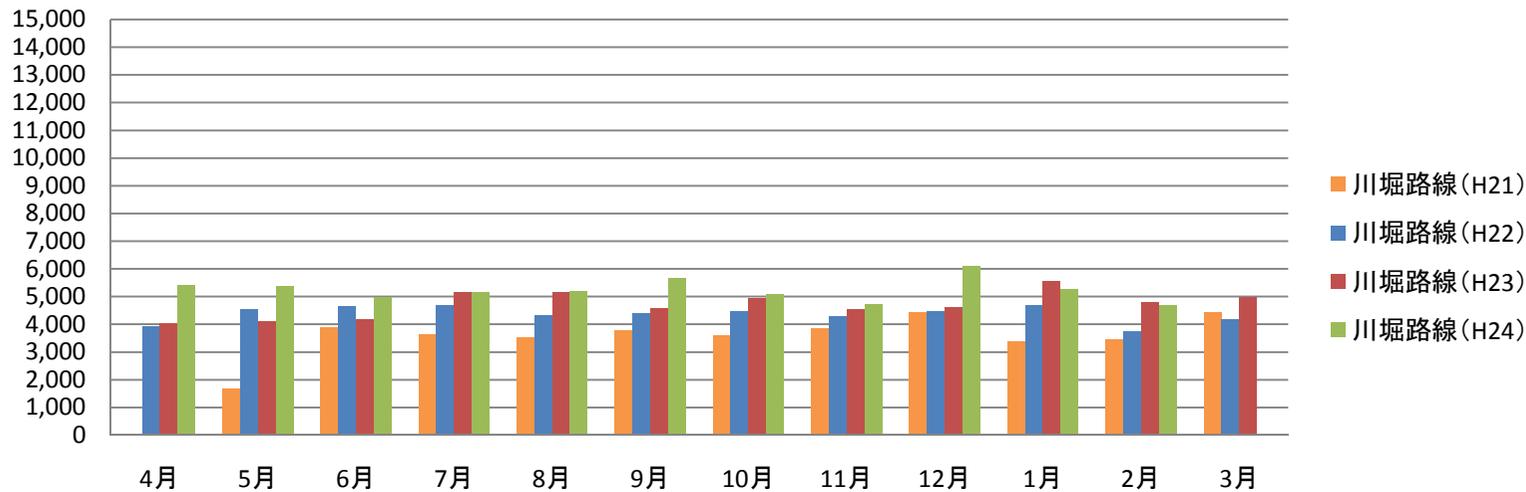


コメント

当路線は、路線再編の際にも運行内容の変更は実施しなかった。よって、昨年秋頃以外は大幅な増減は見られない。

川辺堀之内路線乗車人員比較表

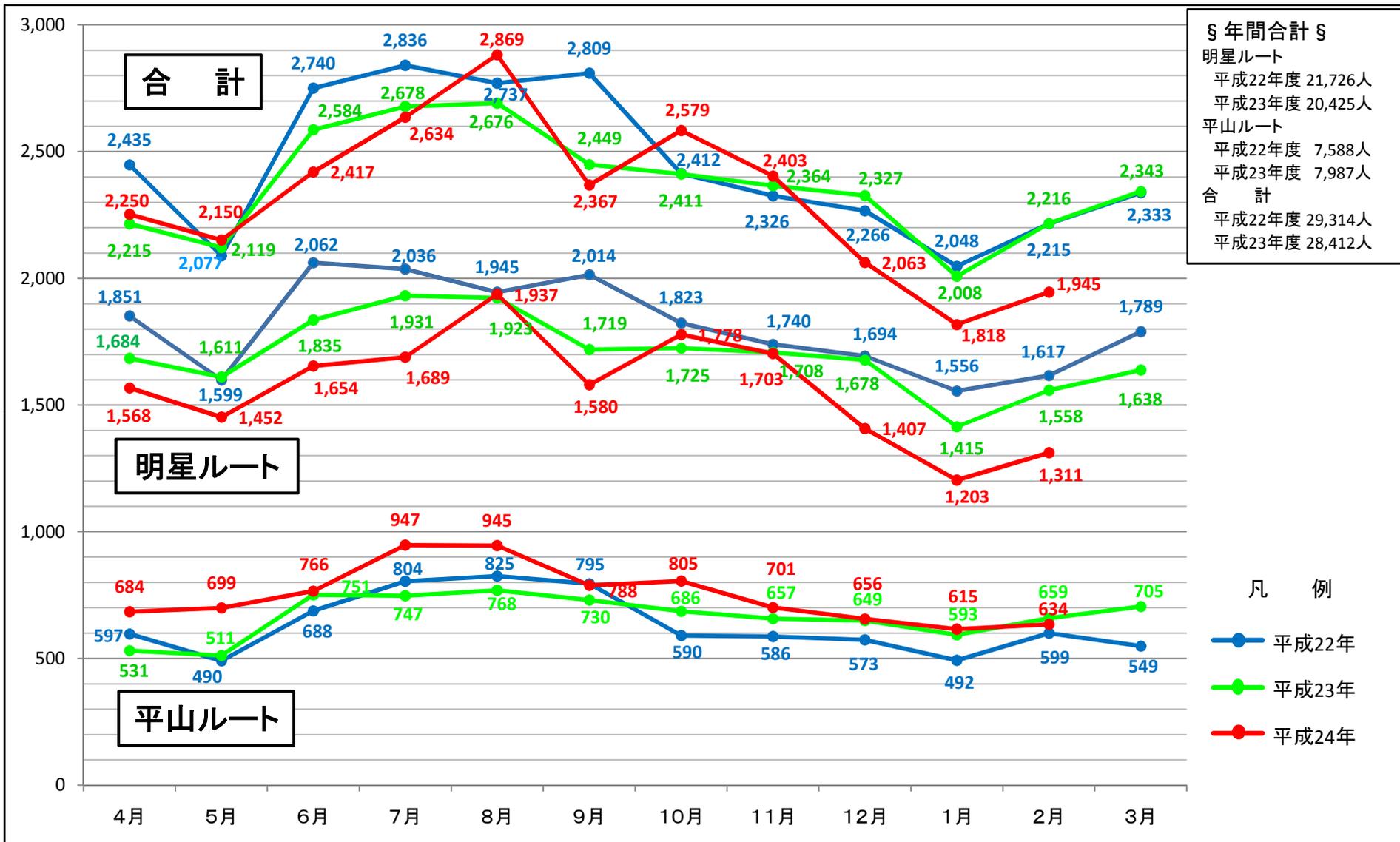
※グラフは、最大15,000人



コメント

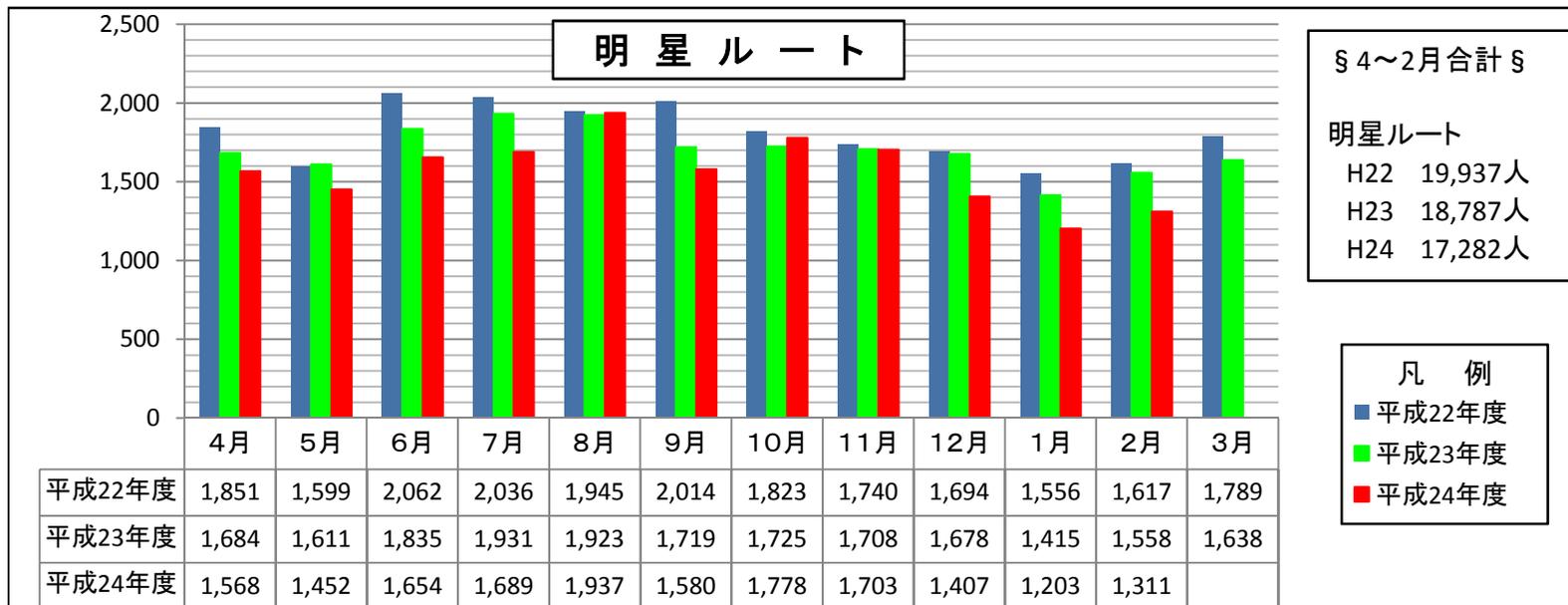
平成21年の開設以来、順調に利用者数を伸ばしている。沿線住民の認知度が上がってきたものと考えられる。それにより、最近では増便を望む声が多くなってきている。

(人) ワゴンタクシー利用人員グラフ(月別)



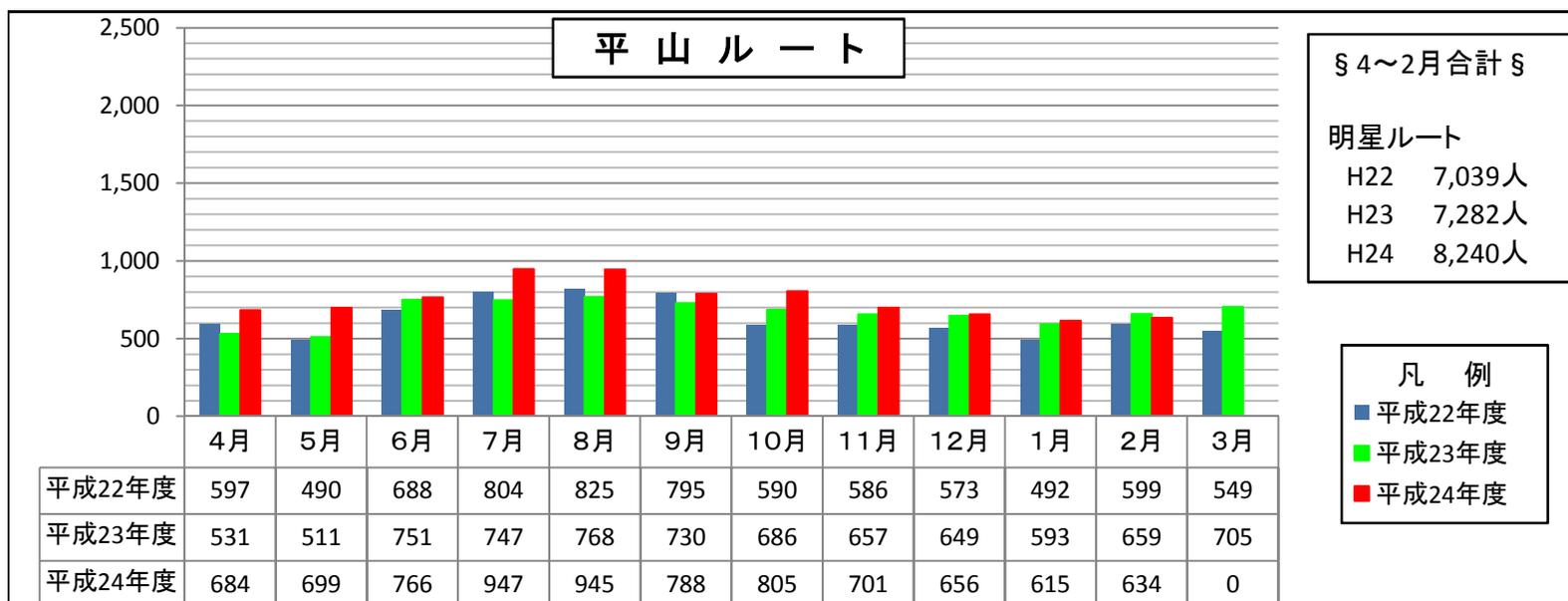
§ 年間合計 §
 明星ルート
 平成22年度 21,726人
 平成23年度 20,425人
 平山ルート
 平成22年度 7,588人
 平成23年度 7,987人
 合計
 平成22年度 29,314人
 平成23年度 28,412人

凡 例
 ● 平成22年
 ● 平成23年
 ● 平成24年



コメント

過去3箇年を比較しても、年々、利用者は減少している。利用者増加を図る手法の実施とあわせて、詳細な調査実施を検討する必要がある。



コメント

利用者は年々増加している。現状を維持しつつ、改善を図る手法を検討する。